

# 「幅広い表現力を求められる吹奏楽に コーン・ヴィンテージワン・トランペットは最適！」

世界的指揮者である佐渡裕氏との共演で数々の名演を生み出し話題になっていくシエナ・ウインド・オーケストラ。アルバム『ブラスの祭典3』が10万枚という異例の販売枚数を挙げたことなどからも分かるように、全国の吹奏楽愛好者の間で人気が高まっている。このシエナ・ウインド・オーケストラの花形として華麗なサウンドで魅了してくれるトランペット・セクシヨンの本間千也さんと佐藤友紀さんに、吹奏楽のトランペットの魅力とコーン・ヴィンテージワン・トランペットについてお話をうかがった。



【トランペット】本間千也  
1989年、東京コンセルヴァトアール尚美（現・東京ミュージック&メディアアーツ尚美）に入学し、在学中に学内コンクール第1位、新潟県音楽コンクール県知事賞を受賞。  
1995年、東京コンセルヴァトアール尚美ディプロマコース卒業。  
1999年、日本管打楽器コンクールに於いて第3位入賞。  
現在はシエナ・ウインド・オーケストラでの演奏活動のほか、オーケストラ客演や金管アンサンブル、スタジオ、ミュージカルなどのさまざまな演奏活動を行っている。  
トランペットを杉木峯夫、津堅直弘、エドモンド・コードの各氏、室内楽を佐野日出男、稲川栄一の各氏に師事。  
参加団体：VIVID BRASS TOKYO、THE BRASS、BLAST BRASS TOKYO、東京ミュージック&メディアアーツ尚美非常勤講師。

「吹奏楽ではオーケストラ以上に表現力と持久力が求められる」（佐藤）

吹奏楽でトランペットに求められるものは、オーケストラとは違うんですか？

本間 違いますね。オーケストラではトランペットとしての役割を求められるんですけど、吹奏楽では、それ以外に、楽器のキャラクターが求められたり、木管楽器とのブレンドが要求されたりするので、いろいろ音色や表現力を変えなければいけません。

佐藤 オーケストラのトランペットも花形ですけど、オーケストラの方が、たくさん待たされて最後に美味しいところが来る感じなのに対して、吹奏楽は、ずっと吹きっぱなしで、映画で言うところから主人公が活躍している感じでしょうか。非常に美味しいんですけど、スタミナが要求されます。

—そういう意味では持久力が要求される？

佐藤 ええ。ただガムシヤラに吹いたのではバテてしまうので、力を抜いて音を飛ばすコツが必要です。

具体的には？

佐藤 球技などのスポーツと一緒にと思

うんですよ。イチローの打法に近い感じですね。彼はすごく力を抜いてスウィングするじゃないですか。球がバットに当たる瞬間だけ力を入れて、バットの真芯でボールの真ん中を捉え、あとはそれを振り抜くだけみたいな感じで。

トランペットで音を飛ばすのもそれと同じで、音を出す瞬間に腹筋に力を入れて、あとは、マウスピースの真ん中を狙って、息のスピードで音を飛ばしてしまえばいいと思うんです。

「反応の良さやダイナミックレンジの広さに驚き」（本間）  
「あらゆるジャンルを演奏する吹奏楽に最適」（佐藤）

—そうした幅広い表現力が求められる中で、コーンのヴィンテージワン・トランペットはいかがですか？

本間 すごく適していると思います。この楽器を最初に吹いたとき、反応が良いのに驚きました。ピアノやピアノシモノに弱い音のときに、出したい音程のところにフッと息を入れるとすぐに反応してくれる。本当に立ち上がりが良いんです。一方、フォルティシモも良く鳴る楽器で、全体的にダイナミックレンジが広い



【トランペット】佐藤友紀

1977年生まれ。東京藝術大学音楽学部卒業。アカンサ音楽賞受賞。  
 99年、第16回日本管打楽器コンクール第1位。第69回・第72回日本音楽コンクール第2位入賞。  
 2003年よりドイツ国立ハンブルク音楽大学に留学。2004年、同大学内エリーゼ・マイヤー音楽コンクール第2位入賞。  
 2005年、全ドイツ音楽大学コンクール第2位入賞。第6回フィリップ・ジョーンズ国際コンクール第3位入賞。  
 これまでにトランペットを岡田治久、杉木肇夫、福田善亮、エドモンド・コード、故ビエール・ティボー、マティアス・ヘフスの各氏、室内楽を福川栄一、杉木肇夫の両氏に師事。現在、東京交響楽団首席奏者、シエナ・ウインド・オーケストラ客員契約楽団員、東京アトラクティブ・プラス、Brasstone! 各主宰。

という印象を受けました。レンジが広いので、吹奏楽のみならず様々なジャンルに適した楽器だと思っています。  
 佐藤 僕も、コーン・ヴィンテージワン・トランペットは吹奏楽に適していると思います。吹く前は、先入観でジャズ用の楽器なのかと思っていました。ですが、実際に吹いてみたらクラシックでも十分に使えることが分かりました。  
 本間さんがおっしゃったとおり、やっぱり反応が良い楽器ですね。あと、音の移り変わりがはつきりしているの、レガートで速い動きをするときにムラ無く吹くことが出来る楽器だと思っています。  
 音色や音程はいかがですか？

本間 とてもしっかりとりました音色を持っていて、全体的に軽くならず比較的柔らかい音が出るように思います。音程も問題ありません。  
 佐藤 僕は、本間さんとはちよつと違って、タイトで締まった音だという印象を持ちました。近代音楽に求められるような鋭い音が欲しいときにもいいなど。そういう意味では、クラシックやオリジナル曲だけでなく、ポップスやジャズの曲もやらなければいけない吹奏楽には最適だと思います。  
 本間 コーン・ヴィンテージワン・トランペットはスタジオプレイヤーでも使っている人が多いですよ。この楽器はピ

ストンを押したときの音ムラがないので、たとえばシャープ系の調でフィンガリングが難しい曲でも吹きやすいんです。この点で、マイクを使った録音にも適しているの、スタジオプレイヤーにも好まれているのかもしれないね。

「ピストンを押す幅が狭く速いパッセージが楽。手が小さい子供たちでも楽に操作できます」(佐藤)

コーン・ヴィンテージワン・トランペットの機能面での特徴は？

佐藤 ピストンを押す幅が狭くてロータリーに近い感じなので、最初はちよつと違和感を感じましたが、慣れたら速いパッセージのフィンガリングがすく楽になりました。この楽器なら、手の小さい子供たちも楽に操作できるでしょうね。  
 本間 本体とベルを繋いでいる支柱が真直ぐになっているのもユニークですね。これもロータリートランペットに近い。通常の斜めに繋ぐタイプとは振動が伝わるポイントが違うから、この楽器独自の吹奏感や響きが生まれていると思います。

佐藤 それと、第1抜き差し管の幅が広いのもこの楽器独自の特徴ですね。このカーブがゆるい分だけ1番ピストンを押したときの音抜けが良いんでしょう。これだと開放のときの吹奏感とピストンを押したときの吹奏感があまり変わらなから音ムラが少なくなる。  
 とにかく、自分の欠点を隠す楽器を選ぶのではなく、自分の長所を伸ばしてくれる楽器を選んだ方が結果が良いというのが僕の持論。ぜひ、一度、このコーン・ヴィンテージワン・トランペットを試してみることをお勧めします。

本間 そうですね。トランペットを選ぶ上で一番重要なのは音程と吹奏感。そういう意味ではコーン・ヴィンテージワン・トランペットは本当にお勧めです。



Trumpet  
 <1B-SP>



希望小売価格 ¥275,100 (税込)

\*ヴィンテージワンモデル

\*in B♭、ボア (11.66mm)、ワンピースイエロープラスモデル、

46スタンダードリードパイプ、ハンドハンマー加工ベル、

2タイプ・チューニングスライド付、モジュラーバルブウェイトシステム付、

シルバープレート仕上

※表示価格は07年2月1日現在のものです。税込みです。

コンサート情報

シエナ・ウインド・オーケストラ第23回定期演奏会  
 A.リード&J.ウィリアムズ 二大巨匠の名曲プログラム

5/20(日)午後2時 東京芸術劇場大ホール

指揮:金聖賢

料金:2,500~5,500円(全席指定)

予約・問合せ:チケットスペース 03-3234-9999

100万人のクラシック シエナ・ドリーム・プラス

3/12(月・祝)午後7時 グリーンホール相模大野 18(日)午後2時 海老名市文化会館

14(水)午後7時 めぐるパーシモンホール 23(金)午後7時 府中の森芸術劇場

15(木)午後7時 所沢市民文化センター・ミュース 26(月)午後7時 ティアラこうとう

16(金)午後7時 松戸森のホール21 30(金)午後7時 かつしがシフォニヒルズ

共演:池上英樹(パーカッション)

曲目:「ツイゴイネルワイゼン」、「剣の舞」、「ルロイ・アンダーソン」ポートレイト、ほか

料金:2,500円(全席指定)

問合せ:CC MUSIC FACTORY 03-5210-9072